

学び合いで追求する喜びを味わう合唱指導

五代 香 織 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

Interactive learning through choral instruction

GODAI Kaori

キーワード：合唱指導、学び合い

I 研究の背景

音楽は、表現及び鑑賞の活動を主体とし、子どもが自ら活動することで成立するものである。そこでは、歌い、演奏し、聴くという子どもの積極的な活動が行われる必要がある。しかしながら、小学校音楽科の現状として、指導にかなりの時間を割いているといわれる歌唱活動において、歌唱の技能や楽譜に関する知識が指導されることはあっても、よりよい表現をするために具体的に「何を」「どのように」すればよいのかといった学び方についてはなかなか指導の充実が図られないという声を聞く。本校の課外活動である合唱部においても、歌唱技能や楽譜に関する知識をある程度獲得している子どもが多いにもかかわらず、よりよい表現に達するための手段や方法を獲得できておらず、その結果、教師から子どもという一方的な指導の流れが定着し、必ずしも子どもの積極的な活動とならない場合があった。

そこで、本研究では、子どもたちが学び合いの中で目指す表現に達するための手段や方法を獲得しながら、積極的に活動していくための合唱指導について研究していく。

II 研究の方向

本校合唱部の実態として、以下の点が挙げられる。

- 活動に対する意欲、基礎的な音楽の能力がともに高い子どもが多い。
- 活動の流れを子ども自身が理解しており、見通しをもって活動できている。
- 楽曲や演奏のよさに気付くことができる子どもが多い。
- 人数が多いため、パートリーダーや役員に頼りがちになり、パートリーダーや役員の負担が大きい。
- すべての活動に指導者がつくことができず、子どもだけの活動になることもしばしばある。
- 到達度を把握する力は高いが、そこから生まれた課題を解決するための手段や方法が適切でない。よって課題の解決に結び付かない練習を繰り返すことがある。

以上のような実態を踏まえると、子どものもつ意欲や能力を生かしつつ、子どもたち同士の学び合いの中で目指す表現に達するための手段や方法を獲得させていくような指導は、本校合唱部の課題を解決することにつながると考える。そこで、以下の2点を研究の重点として設定し、学

び合いで追求する喜びを味わう合唱指導の充実を図っていく。

- 本校合唱部の児童を対象に、合唱活動についての意識調査を実施し、合唱活動に対する子どもの思いや願いを分析する。
- 意識調査から明らかになった結果を基に、合唱指導の手立てや留意点を明らかにした合唱指導の方向性を見いだす。

Ⅲ 研究の内容

1 「学び合いで追求する喜びを味わう」とは

音楽の学習では、子どもが表現の高まりを目指そうとすると、自分の表現を振り返り、目指す表現への思いと照らし合わせ、自分なりの解決策を見いだしながら活動を進めていく。合唱活動においては、集団での活動が大半を占めることから、自分の表現と、他者の表現とを比較したり、思いを共有したりしながら表現の高まりを目指すことができる。このような活動を繰り返すことで、集団でつくりあげる喜びや楽しさを味わうことができる。

このような喜びや楽しさを味わわせるためには、他者との関わりの中で自分や集団の課題を見つたり、表現を高めていくための手段や方法を提供・獲得したりしながら、変容していく表現を実感できるようにしていくことが必要であると考えた。このように一方的ではなく、双方の情報を提供・獲得するかかわり合いを「学び合い」とし、以下の3つの目的に応じ、合唱活動に意図的に組み込んでいくこととした。

- ア 楽曲や演奏を聴き、そのよさや面白さを明らかにするための学び合い
- イ 自分たちの演奏と、目指す表現への思いを照らし合わせ、到達度を把握するための学び合い
- ウ よりよい表現へ向けた課題を解決するための手段や方法を試行するための学び合い

2 子どもの合唱活動に関する意識調査の分析及び考察

本校合唱部の合唱活動に関する意識調査の結果は以下のとおりである。

表1 意識調査の期間、方法及び対象者

調査期間	調査方法	調査対象者（合唱部員）			
平成28年 1月下旬	質問紙法	6年生 8名	5年生 20名	4年生 17名	3年生 9名

(1) 合唱活動の目標

本校合唱部の目標は、①歌唱技能の向上、②よい人間関係の育成、③豊かな情操を養うの大きく3点に集約される。そこで、子どもたちがどの程度この目標を捉えているか調査した結果が以下のとおりである。

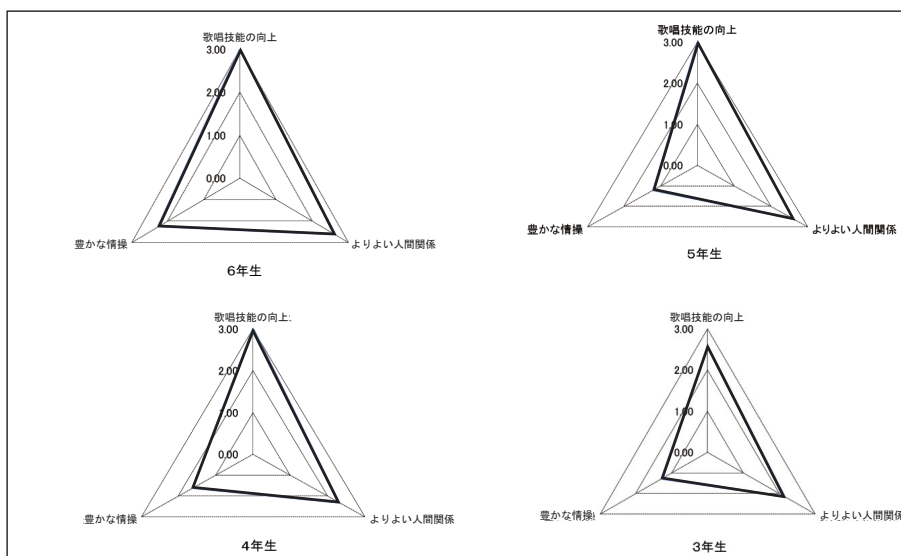


図1 合唱活動の目標

以上の結果から、活動期間の長い6年生については、3つの目標をバランスよくとらえて活動にのぞんでいることが分かる。また、いずれの学年においても、「歌唱技能の向上」及び「よりよい人間関係」についてはよくとらえていることから、合唱部という組織に属している以上、歌唱技能の向上は必須目標であるという意識や、集団で活動するという特性を踏まえて、仲間との望ましい関係性の中活動していきたいという意識がうかがえる。よって、子どもたちは仲間とよりよい関係性を築きながら、歌唱技能の向上を目指したいという思いをもっていることが分かる。

(2) 合唱活動に対する楽しさ、必要性、難しさの意識

合唱部で行う活動は、多岐にわたっている。その中で、子どもたちが各活動をどのようにとらえているのかを調査した結果が以下のとおりである。

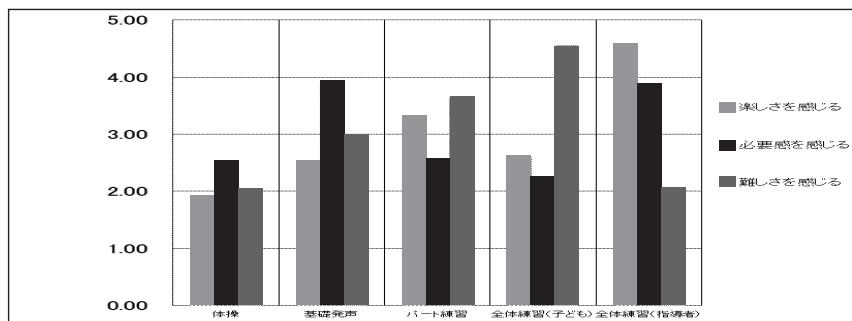


図2 合唱活動に対する楽しさ、必要性、難しさの意識

ア 楽しさの面から

子どもたちが最も楽しさを感じている活動は、指導者による全体指導であるという結果が得られた。その要因として、指導者と子どもの関係性に起因する理由や、前述の「歌唱

技能の向上」という観点から、「指導者の全体指導で、自分たちの技能が高まる」「効率的である」といった理由が多く挙げられた。次いで多く挙げられたのが「パート練習」である。これは指導者ではなく子どもの中のパートリーダーが中心となって進める活動であり、その要因として「自分たちで進められるよさがある」「仲間との関係が深まる」など、「よりよい人間関係」という観点からその楽しさを見いだしている理由が多かった。

イ 必要性の面から

子どもたちが必要性を感じている活動は、基礎発声練習及び指導者による全体指導に加え、体操や基礎発声練習といった、個人の技能を高めることを目的とした活動であることが分かった。これは、歌唱技能の向上は、個人のレベルアップが必要であるという考えに起因すると思われる。一方で、楽しい活動では上位に挙げられた「パート練習」については、「個人が高まればおのずとパートも高まるから」「指導者の全体指導の方が大事である」といった理由であまり必要性を感じないという意見もあった。しかし、子どもたちの目指す歌唱技能の向上のためには、パートの声をそろえることが必須である。よって、子どもたちにはパート練習の必要性を実感させていく必要がある。

ウ 難しさの面から

子どもたちが難しさを感じている活動は、「子どもによる全体指導」が大半を占めている。この活動は、リーダーや役員が中心となって、全体指導を行うものである。これは高い技術や音楽への理解が求められるため、頻繁に行われるものではないが、本校合唱部の実態にも述べたように、指導者が不在の際の活動として行われることがあるものである。難しさを感じる理由として、「子どもだけで大人数をまとめるのが大変である」といった集団を動かすことに対する難しさや、「どこを観点にアドバイスをしたらよいか分からない」といった課題を解決するための手段や方法が分からないことに対する苦手意識が挙げられた。このことは、次いで難しさを感じている「パート練習」においても同様の傾向が見られた。

3 学び合いで追求する喜びを味わう合唱指導の実践

(1) 子どもの意識を踏まえた合唱指導の方向性

前項で明らかになった子どもの意識を基に、具体的な指導に生かすために、各活動の指導の方向性を設定した(表2)。

ここでは、本校で行っている「体操」、「基礎発声」、「パート練習」、「全体練習(子ども)」、「全体練習(指導者)」それぞれに対して、「指導のねらい」、「導入する学び合い」、「教師の働きかけ」について明記し、子どもとも共通理解を図ることにした。

五代 香織：学び合いで追求する喜びを味わう合唱指導

表2 子どもの意識を踏まえた合唱指導の方向性

活動	指導のねらい	導入する学び合い	教師の具体的な働きかけ
体操	・歌唱活動に必要な筋肉を鍛えたり、過度な緊張を取り除くことで、歌う体をつくる。	・互いの動きを見合うことで、意図したトレーニングになっているかを把握する。(学び合いイ)	・どの子どもも進められるような、順序、声かけシート ・上学年・下学年でのペアをつくり互いに到達度を把握できる活動形態
基礎発声	・喉に負担がないように、2音→3音→5音→ハーモニー→練習曲といったスモールステップで声の準備運動をする。		・発声練習用データ ・弾ける子どもへの楽譜及びキーボード ・上学年・下学年でのペアをつくり互いに到達度を把握できる活動形態
パート練習	・同じパートの子どもたちで集まり、パートごとの音程や音色をそろえる。 ・パート内で個人の技能を高める。	・全体的な傾向を感じ取ったり、部分的に聴取したりしながら、自分たちの課題を見つけ、解決の手段や方法を試行する。(学び合いイ・ウ)	・パート用の練習データ ・パートごとの場所指定 ・声かけの観点表 ・個人達成表※ ・パート会議※用ホワイトボード
全体練習 (子ども)	・ある箇所を部分的に取り上げたり、簡単な斉唱曲、二部合唱曲の大まかな曲想をつかんだりする。		・練習データ ・声かけの観点表 ・相互発表を行い自分たちの演奏を客観的に見つめ再試行する場の設定
全体練習 (指導者)	・これまでの学び合いの価値付けをしたり、専門的な視野から技能を高めたりする。		・表現を追求する喜びや学び合いの価値に気付かせる発問 ・子どもの課題に応じた的確な指示、助言及び次の課題の提示

(2) 学び合いで追求する喜びを味わう合唱指導の具体例

ア 個人達成表の活用

これまでに本校の合唱部の活動では、子どもの到達度を把握する際、子どももしくは指導者の耳に頼ることが多く、たとえ観点をもっていても、人によって判断基準が異なるなど課題があった。そこで、右図のような個人達成表を活用することで、到達度を可視化できるようにした。

お日さま 達成表		() 年() 組 名前()																	
運動一歩のびるふくらませる																			
A	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32				
B	上りいすべ～いすべ～いすべ～																		
	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49		
C	両より一歩のびる																		
	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60									
D	はでで(はらへ～)わんわんかけます																		
	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80			
E	はのほろろ～わ～えを																		
	81	82	83	84	85	86	87	88											
F	あたたく～いかり																		
	89	90	91	92	93	94	95	96	97										
G	はのはるろ～わ～えを																		
	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113			
114 115																			
H	こたは(Hungry)～最後																		
	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131			
I	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147			

図3 個人達成表

これは、新曲に取り組み始めた音取りの段階で活用するほか、練習がある程度進んだところで暗譜の確認に活用したり、部分的な課題の克服にも活用可能である。

イ パート会議の導入

子どもたちが楽しさと難しさを感じつつもあまり必要感を感じていなかったパート練習に、パート会議を適宜位置付けることにした。これまで本校合唱部で行ってきたパート練習は、各パートに場が分かれて音を取ったり合わせたりする活動が行われるにとどまり、音程やリズムの確認の場という機能しか果たしてこなかった。そこで、パートごとという少人数の形態を生かし、自分たちの思いを共有したり課題の解決に向けた手段や方法を吟味したりできる場として、パートリーダーが自己のリーダー性を発揮しながら、目指す表現に向けた手段や方法を吟味することができるようにした。その際、パート会議で話し合われたことが、そのパート内で終わるのではなく、必ず全体でそれらの内容を報告し、共有することで、他のパートの課題や、それらの解決に向けた手段や方法を知り、そのことが次の活動で到達度を把握するための新たな観点を見いだし、子どもの積極的な活動を促すことができるようにした。

Ⅳ 研究のまとめ

1 研究の成果

- 意識調査を実施したことにより、子どもがどのような思いや願いをもって合唱活動に取り組んでいるかが分かり、それらを踏まえた指導の方向性を見いだすことができた。
- それぞれの活動の特性を踏まえ、どのようなことに留意して指導していけばよいかを学び合いの観点から整理することができ、指導方法を具体化することができた。
- 個人達成表の活用やパート会議を導入したことにより、子どもが自分の達成度を的確に把握したり、友だちの演奏を聴く観点を明確にしたりすることができ、子ども同士の活動の充実が図られた。

2 今後の課題

- 本研究で得られた成果を、合唱部の活動以外でも適用できるか可能性を探る必要がある。
- 個人の歌唱技能の向上をより図るために、それぞれの活動の内容をより精選し、効果的・効率的に進めるための指導方法についてさらに研鑽を積む必要がある。

付記

本報告は、鹿児島大学教育学部附属小学校平成25～27年度研究紀要で発表した研究内容等に基づき、音楽科教育において研究をさらに発展させ、その研究成果をまとめたものである。

<参考文献>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説－音楽編』 2008 年

鹿児島大学教育学部附属小学校 『個の確立を目指す授業の創造』 2013 年

鹿児島大学教育学部附属小学校 『個の確立を目指す授業の創造Ⅱ～集団の学びを個に返す学習指導～』 2014 年

鹿児島大学教育学部附属小学校 『個の確立を目指す授業の創造Ⅲ～探究的な学習の実現～』 2015 年